

平成29年3月期 中間決算について

平成28年11月1日
JFE鋼板株式会社

平成28年9月中間期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年9月30日)

(百万円未満切捨て)
(%表示は対前年同期増減率)

連結経営成績	売上高		経常利益		特別損益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年9月中間期	27,330	△ 7.0	255	-	△ 664	-	△ 336	-
27年9月中間期	29,393	△ 13.1	△ 205	-	0	-	△ 253	-

注 連結子会社数 28年9月中間期 5社、27年9月中間期 5社
 北長金日米建材(株)・JFE鋼板総合サービス(株)・JFE機材フォーミング(株)
 レヂノルーフテック(株)・JFE日建板(株)
 持分法適用関連会社数 28年9月中間期 1社、27年9月中間期 1社
 JFE商事薄板建材(株)

(百万円未満切捨て)
(%表示は対前年同期増減率)

(参考)個別経営成績	売上高		経常利益		特別損益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年9月中間期	24,174	△ 7.3	230	-	△ 655	-	△ 320	-
27年9月中間期	26,088	△ 15.0	△ 349	-	-	-	△ 247	-

【当中間期の概況と損益】

当社の主要な市場である住宅分野は、日銀のマイナス金利政策による住宅ローン金利の低下影響等により、新設住宅着工戸数(持家)が8カ月連続(平成28年2月～9月)で対前年同月比増加となり、底堅く推移してまいりました。一方非住宅分野の需要は若干の回復の兆しがみえているものの、力強さを欠いている状況です。

当社の当中間期売上高は、販売価格の大幅な下落があったものの、高付加価値鋼板の販売に注力する等で減少幅の抑制を図った結果、27,330百万円(前年同期比△7.0%)となりました。

経常利益は、カラー鋼板新商品“Jクラフト”シリーズへの切替および拡販と、従来からの高付加価値鋼板の販売促進等に加え、東日本製造所京浜地区第4連続溶融亜鉛めっき設備の早期停止による生産体制効率化や、場内置場拡張による物流費削減等のコスト削減により大幅に改善し、当中間期は255百万円(前年同期比+460百万円)となり黒字転換いたしました。

なお、当期純利益は△336百万円となりましたが、これは京浜・第4連続溶融亜鉛めっき設備の休止に関連する特別損失等664百万円を計上したことによる一過性のものです。

【当期の見通し】

今後、薄板建材需要は底堅く推移していくと思われますが、大幅な原材料の値上がり懸念等、経営環境は厳しくなると予想しています。

下期は以下の5つの収益改善策を推進し、経営基盤の強化を図ってまいります。

1) 高付加価値商品の拡販

- ・環境に優しく、新たな防錆および防汚技術により耐食性にも優れた、クロメートフリーカラー鋼板新ブランド“Jクラフト”のさらなる拡販と、これに続く新商品の開発。
- ・軽量であることを活かし、地震による建物倒壊や屋根材落下の危険性が低い、金属屋根の耐震性能PRと普及の促進(特に、金属屋根比率の低い西日本への拡販)。
- ・工場・物流倉庫の施主・ゼネコン・設計事務所への営業強化。
- ・総合カタログ、商品説明会、京浜THiNK SMART(商品展示場)を活用したお客様へのアプローチ強化。

2) 建材商品の開発・拡販

- ・需要が伸びている耐火ヴァンド・断熱ヴァンドの拡販による当社カラー鋼板の需要拡大。
- ・耐震性や耐久性に優れ、軟弱地盤・狭小地にも短工期対応でき、集合住宅や高齢者用住宅に適し、売上高新記録を更新しているシステム鉄骨“フレームキット”の更なる拡販。
- ・防水性・施工性に優れ、経済的で工期が短い改修用屋根商品の拡販(スレートカバー工法、フットロック瓦棒、タイトロック500、だんだん等)。

3) 新規分野への参入・拡大

- ・ドローンを使用して建物の屋根・壁を診断し、老朽化や災害により劣化損傷した外装に対して合理的な補修、リフォーム、清掃の計画を提案する、インスペクションビジネスによる営業強化。
- ・JFE日建板、北長金日米建材との連携による成型・工事分野の事業拡大。
- ・需要が急増しているJFE機材フォーミングのファステック(新型手摺先行足場)の拡販。

4) コスト競争力の強化

- ・京浜・第4連続溶融亜鉛めっき設備の早期休止によるコスト削減効果の早期発現と生産効率の最大化。

5) 鉄鋼原料の高騰による大幅なコストアップの販売価格への反映

- ・自助努力は続けるものの、大幅な原材料の値上がりが予想されることから、お客様のご理解をいただきながら販売価格への反映推進。

以上